

第1回尾張旭市総合計画審議会（第3部会） 会議録

- 1 開催日時
令和5年7月3日（月） 午後1時45分から3時10分まで
 - 2 開催場所
尾張旭市役所南庁舎3階302・303会議室
 - 3 出席委員
岡崎 信久、高橋 芳江、三浦 哲司 3名
 - 4 欠席委員
佐藤 庸子、山本 恵美子 2名
 - 5 傍聴者数
0名
 - 6 出席した職員等
企画部長 松原 芳宣、企画課長 谷口 洋祐、課長補佐 寺尾 綾、
政策企画係長 田中 広樹、政策企画係主査 北川 歩、
政策企画係主事補 伊藤 舞香、インターンシップ実習生
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)名古屋（MURC） 河合 修治
 - 7 議題等
 - (1) 基本目標5及びその施策に関する調査審議
 - (2) 基本目標8及びその施策に関する調査審議
- 会議の要旨

企画部長	本日は、大変お忙しい中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。 ただいまから、尾張旭市総合計画審議会第3部会の第1回目の部会を開催させていただきます。 開催に先立ちまして、本日は、佐藤委員と山本委員から御欠席の連絡をいただいておりますので、御報告をさせていただきます。 なお、本日は企画課の職員の他に、本市の総合計画の策定を支援していただいている三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社名古屋の河合様にも同席いただいておりますので、御紹介させていただきます。 また、市企画課で現在インターンシップ実習を行っております学生も同席させていただきますのでよろしくお願いいたします。 それでは、以降の進行を、三浦部会長にお願いいたします。
------	---

三浦部会長	本日は、お忙しいところお集まりをいただきまして、ありがとうございます。 本日が、第1回の部会ということになります。全体会を昨年度も含めて2回を行ってきたかと思います。前回、6月末の全体会に急遽参加できず、申し訳ございませんでした。お詫び申し上げます。 今回は部会ですので、より具体的な内容に対し、忌憚のない御意見をいただきながら今後の尾張旭市のことを考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 本日の会議につきましては、御手元の次第に従って進めさせていただきます。 それでは、議事に入ります前に、次第の1-(2)として、部会の審議範囲と今後の進め方について確認しておきたいと思いますので、企画課の方から説明をお願いします。
政策企画係長	(部会資料1-1) 部会について 説明)
三浦部会長	ただいま、第2回の全体会で説明のありました部会の審議範囲や、具体的な進め方の説明がありました。イメージをしていただけましたでしょうか。 個別具体のところもやりつつ、前回から行っている大枠の部分についても御意見をいただきながら進めていくということになりますので、よろしくお願いいたします。 特に皆様に御異論がなければ、このまま進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。
	(意見なし)
三浦部会長	それでは、次第の2、議事に移りたいと思います。 本日は、先ほど企画課から説明もありましたが、基本目標5と基本目標8の2つについて調査審議いたします。 基本目標5は「人とふれあい安心して暮らすまち」、基本目標8は「未来につながる行政経営」ということになります。 まず、基本目標5の安全安心・市民生活の分野の審議を進めていきたいと思います。 最初に企画課から主要な部分の説明をしていただきまして、その後、皆様から御意見をいただく形で審議を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
政策企画係長	(部会資料3) 施策別指針(素案)34ページから40ページまで、資料8) 基本構想(素案)6ページ上段に基づき、基本目標5及びその施策について説明)
三浦部会長	ありがとうございました。 基本目標5に関連する施策について、一通りの御説明が

	ありました。 それでは、説明のあった部分について、施策ごとにお気づきの点や事実関係の確認、御質問、御意見など、どのような角度からでも結構ですので、御発言をいただき、その後、基本目標についても、御意見等をお伺いしていきたいと思います。 企画課に確認です。先ほど説明のあった、未来像や基本方針につきましては、今回取り扱うのでしょうか。
政策企画係長	そちらにつきましては、第2回の部会で調査審議していただきたいと考えております。
三浦部会長	分かりました。 それでは、今御説明いただいた部分について、御意見等あればお願いしたいと思います。分量も多いですので、資料の御確認をいただく時間を設けます。 まず初めに、部会資料3の34、35ページの施策5-1について、お気づきの点や改善点、あるいは現状の確認など、どのような角度からでも結構ですので、御発言をお願いしたいと思います。
岡崎委員	基本的な資料の構成について、説明では、右側の「現状と課題」を説明して、「こういった現状と課題があるので、具体的な主な取組はこうです」と説明されたと思います。そのために我々市民とか地域や団体が行う具体的な取組がその下段であると捉えればよいのでしょうか。 また、そのうえで、指標目標が右側に書かれていると思うのですが、「主な取組」の内容に対してそれぞれ指標目標があると見ていけばいいのですか。
政策企画係長	はい、そのとおりです。 指標につきましては、「主な取組」1つに対して、2つあるところもあります。「主な取組」1つに対して1つ以上と御認識ください。
岡崎委員	「主な取組」に対して、それぞれ1つないし、2つの指標目標が設定されているということですね。
政策企画係長	はい、そのとおりです。
三浦部会長	はい、ありがとうございます。 今、御質問いただいたような、冊子の構成等に関する事実関係の確認等でも結構ですので、お願いできればと思います。 私から確認させていただきます。 34ページ、35ページの部分に関して、コミュニティ施設の話が出てきまして、次の基本目標8に関わってくるのかもしれないですが、公共施設をどうしていくのかが全国的に課題になっていると思います。この文脈だと、快適に活用・利用できるように整理といいますか、修繕等を進めていくという形で読める一方、場合によって

	は、統廃合とかの可能性など、いろいろな選択肢があると思います。 この辺りについて、地区の問題や老朽化の具合等、なかなか一枚岩ではないとは思いますが、どのように読み解けばよいのか、何か御発言あればよろしいでしょうか。
企画課長	本市の公共施設の中でも、施策５－１につきましては、コミュニティ施設という表現をしております。このコミュニティ施設とは集会所やふれあい会館などの地域に根差した建物や、生涯学習施設という位置付けにはなりますけれども、公民館なども含まれます。それ以外に、尾張旭市には４か所、大きめの拠点施設がございます。スカイワードあさひ、渋川福祉センター、東部市民センター、新池交流館です。これらは市の東西南北にある少し大きめの拠点としてコミュニティ施設に含まれます。他自治体に遜色ない尾張旭市の財産として、地域に数多くあり、加えて拠点施設４か所の整備を進めてまいりまして、概ね、数量という部分では、充足感がある状態までできていると思っております。 これらの施設の老朽化が課題になってきておりまして、インフラ、箱物であるコミュニティ施設ももちろんそうですけれども、これから先、いわゆる長寿命化による延命をさせていくという部分の検討が必要になるのと考えております。 後ほど、確認・御議論いただきます、基本目標８でも、公共施設の総合管理計画を個別計画とする取組を定めています。いわゆるファシリティマネジメントというもので、いかに効率的に活用していただくか、いかに計画的に維持管理をしていくかを定めるもので、それぞれの施設に対して策定しています。 現状、すぐに施設の廃止や統合、統廃合といったことを考えていく動きは、今のところございません。
三浦部会長	分かりました。 当面人口は増えると資料にありましたが、中長期的には人口が減少していくことを考えると、将来的に場合によっては、施設の老朽化により、いずれ考えていかなければいけない。しかし、今のタイミングでは、まだ公共施設の整理は考えていないということですね。 もし委員の皆様方から何か御発言あればお願いします。
高橋委員	霞ヶ丘町に住んでおりますが、自治会の皆さんでいろいろと行事をやりながら仲良くしていたことがあったけれども、新型コロナウイルス感染症で行事がなくなってしまいました。これから新しくやろうと思っても、面倒だから参

加したくないという意見があり、行事を行えず、すごく悩んでいます。霞ヶ丘地区は盆踊りはやらないということで、白鳳連合自治会の大きな祭りによかったら参加してくださいというだけになっています。お祭りは地元のものですから、私は自治会やったことあるので、ぜひ開催し、皆さんに参加してもらいたいと思います。今の若い方の中には、参加することをすごく嫌がる方もいらっしゃいます。自治会の会合をやると、反対の意見が出ることもあり、盛り上がらないこともあります。

こういった問題に対しての解決策を自治会の方へ持って帰れたらと思います。盛り上げるためには、どうしたらよいのでしょうか。

若い方たちの中には「なんで参加しなければいけないのか分からない」という気持ちから参加してもらえないことがあります。私は、子どもを育てながら町内の方たちと仲良くして、誰と会っても、どこの人かが分かるくらいでしたけれど、新しい家が建ち、新しい人がどんどん入ってきていて、誰がどこの方なのかまったく分からなくなってきましたし、考え方も皆さんそれぞれ違ってきています。町内でお祭りをやって集まってくれれば災害のことを考えても良いなと思います。

特にコロナが始まって、何もやらなくなったら皆さんが集まるものがなくなってしまったものですから、これから立て直していくのにどうして行ったらいいのかと困っています。

今、自治会で役員をやっている方が、困って私に相談に来たこともあるけれど、どうしてあげたらいいか分からない。他の地区でのいい案があれば参考にして、霞ヶ丘地区を盛り上げていけるといいなと思っています。

コロナ前とかは、盆踊りもあったし、お祭りもあったし、ウォークラリーもあったし、皆さん集まってワイワイやるのがすごく楽しみでやっていた。けれど、集まることを嫌がる方がいらっしゃる。町内の役員会も嫌がられて出てこない方もあります。

お祭りのやり方が分からないと相談を受けたときには、資料が家に保管してあったので、お渡しして、「やらなければいけない」ではなく、「楽しもう」という気持ちで参加してもらおうといいのではないかと、「みんなでやろう」という気持ちを若い方に持ってもらうことが大切だと私は思

	うと伝えました。また、子どもの親御さんたちも自分が子どもの頃に参加していたと思うので、自分が面倒くさいと続かないことなので、親子が楽しめる行事にして、祭りを盛り上げてはどうかと言っているけれど、実際にはどうやったらいいか分からないのが現状です。
三浦部会長	非常に重要な指摘、御発言であると認識をしております。 今お話しのありましたことについては、論点が2つあるのかと思います。1つ目は、コロナで、地域活動が途絶えてしまった点です。地域活動の基本は対面ですので、それが制約を受けてしまったことにより、途絶えてしまった部分をどうしていくのかという課題です。 もう1つは、この部会でなく他の部会で扱う話ですが、新しい方々が入ってきていて、戸建て住宅を尾張旭市に建てて、地域に住むけれど、かなりドライな人間関係を望んで、自治会・町内会に入らない、そういった方々に対してどう働きかけていくのかというところですね。これは、もしかしたら災害対応や環境美化とかいろんなところに関係してくる部分です。 ですので、この2つの課題にどう向き合うのかが問われているのかなと思いますけれども、今の御発言に対して何か御回答あればよろしいでしょうか。
企画課長	御指摘の点が市としても非常に大きな課題であると思っております。部会長に整理していただきました2つの論点で申し上げますと、まず1つ目のコロナの影響でございます。 コロナの影響で市の様々な分野で大きな影響を受けておりますが、その中でも1番と言っているほど、自治体加入率の低下、参加者の減少があり、数字にも現れていますし、まさに実感いただいていると思います。コロナでお祭りがなかなかできないことやイベントができなかった影響が大きいなと思っております。そうした中では、今年がとても大切なタイミングかなと思っております。 これから各地域で盆踊りなども復活してくるという風に聞いております。市内の各地域で、その時々でやれる体制や、タイミングがあると思いますので、「こんなことをやって上手くできたよ」という良い事例を、積極的に発信していきたいと担当課は言っております。 役員に対する負担を感じてやりたくないなどの御意見も

	いただくことがありますので、役員をやっていただく方に対して、どんな形になるのかはわかりませんが、何らかのインセンティブを付すことができないかという研究を開始しています。その他にも、負担の分散化、一人の役員さんだけにしわ寄せがいてしまうのではなくて、手の空いた人が役員でなくても手伝えるような仕組みづくりを、市内のいくつかの地区でやってみてはどうだろう、という声が上がり始めていると聞いております。 そうしたやり方が、すぐに上手くいくのかは分かりませんが、地域で実施している取組等を、連合自治会の会長が集まる会議などを通して、情報を共有しながら進めていけるといいなと思っております。 本審議会もそうした情報共有の大切な1つの場かなと思っております。会議の場も再開してきており、面と向かってお話しできる機会ができています。コロナのことや、新旧の住民のことについても、行政がやれることと市民の皆さんや各地域でやれることが様々あるかと思います。部会資料3の34ページに記載しております、「主な取組」は主に行政が行えることでしょうし、市民や地域や各種団体ができることのヒントになるようなことを「市民・地域等の取組」に少しでもちりばめて、具体の事務事業の中で、進めていきたい、第六次総合計画を使っていきたいと思っております。
岡崎委員	そういう意味では、「主な取組」の丸の一つ目は、すごく良いことが書いてあります。コロナなど、様々なことが起こる時代の中で、「時代に合わせて活動を見直す」、「負担軽減に努める」そういうことをやりながら、「活発な活動を継続していく」という内容はすごくいいなと思います。 一方で、この「主な取組」に対する「指標」目標が、自治会・町内会加入世帯数で、取組の活動を追う指標になるのだろうかという点において疑問があります。この指標も大事だとは思いますが、体制のあり方や支援のあり方を含めて新しいことをやると言っているのであれば、もう少し何か違う指標もあるのかなという気がします。
三浦部会長	ありがとうございました。御意見いただきましたけれども、別の指標でのやり方もあるかもしれないと思いますので、一度持ち帰ってもらって、検討いただければと思います。

三浦部会長	それでは、次に資料３６、３７ページの施策５－２「防災・減災対策の推進」について、先ほどのコミュニティと関わってくる部分もあるかと思いますが、御発言をお願いしたいと思います。 自主防災などはまさに自治会との関わりが密接かと思います。防災リーダー会の高橋委員から御意見ありますか。
高橋委員	防災リーダー会の活動をするにしても、自治会が主になって人を集めてくださると話がしやすいと感じます。以前、私が自治会をやっていたときは、皆さんにお知らせして防災のことを説明し、家具の固定を実施してくださいと皆さんにお伝えしました。そのように過去には何回かやったけれど、やめてから何年か経ちますので、最近、防災についても話すこともなくなってしまい、いろんなことが希薄になっている。 町内会に加入していただけていないことが問題。新しい人がいっぱい引っ越してきて、お子さんがいらっしゃる家庭はあるけど一番肝心な子ども会がない。老人会は私も入っていますし存在しています。活発に活動しているけれど、若い方は歳を取っても老人会に入っていない。超高齢者ばかりが助け合っている感じがします。 防災で一番肝心なことは減災です。なるべく被害に遭わないように家具の固定などによる減災を皆さんにお勧めしています。家具が倒れてしまっただけではいけないので、家具の固定はしっかりやってほしい。「冷蔵庫はやってありますか」とか「食器棚はやってありますか」と啓発をしています。家具が倒れないということは絶対にはいけませんから、逃げる時間を設けるだけでも良いのでやってほしい。家具の固定をやっていない人に聞くと、固定しなければいけないことは分かっているのだけれど、１歩がでない。固定をやりだした家庭は結構すぐにやれてしまう。だから、帰ったら冷蔵庫だけでもやって、そうすると食器棚もやっておこうかな、タンスもやっておこうかなということになる。 尾張旭市のすごくいいなと思ったのが、６５歳以上の高齢者や１人住まいや高齢者しかいない世帯に対して、市の方が実費で家具固定してくださることがある。こういうサービスを大いに利用した方がいいと思う。私の経験では、一人住まいの人を誘って一緒に手続きをして、実際に家具を固定してもらったときは安心だと言われた。一方で、全体で話をすると、必要性を感じながらも面倒くさいからや

	らない人がいる。
岡崎委員	防災も大切ですが、減災が必要ですよね。
高橋委員	平時にやっておかないと、あの時やっておけばよかった、と絶対後悔するから、それだけはやってねと伝えている。 減災のためにやらなければいけないことは分かっているけれど、やらない人が多い。毎年家具の固定などの講習がありますが、子どもを連れてくると家に帰って「お父さんやってね」と伝えてもらおうが、実際にはやってもらえないことが多いです。
岡崎委員	家具の固定については、市の広報紙でも載せて啓発されています。広報紙で周知しているが、知らない人も多いということも現実です。
三浦部会長	減災という考え方は、周知されていることが1つ。家具の固定など様々な既存事業や補助があるとは思いますが、なかなか行き渡っていないという事実があるようですので、その辺りをどのようにしていくのか、周知方法など必要ではないかと思います。
高橋委員	食品のストックなどは、ローリングストックと覚えて、やっていただいているみたいですが、命が助からなきゃ、食品をストックする必要がなくなってしまう。命があつてこそ食べるものが必要になってくるのだから。食品のストックをする前に自分の命を助けないと、という話をしたことがある。多分、市もすごく心配しているのではないかと思います。 新しい住宅は、減災対策がされている建物が多い。冷蔵庫もきれいにはまるように間取りされている。新しい住宅はいいなと思います。古いとあまりやっていないみたいですから。
三浦部会長	ありがとうございました。 住民組織という点では、先ほど自治会に入らないという話がありましたけれども、消防団や自主防災組織とか、少年少女消防団等の活動量はかつてと比べてどうでしょうか。
高橋委員	婦人消防クラブの発足時に参加していて、初期消火等の訓練を行いました。今は、行事にだけ婦人消防クラブを出してもらっているだけで、救急救命などAEDが主になっていて、初期消火訓練があまり行われていない。尾張旭市は火事が少ないですから、皆さんの認識が少しずつ減っているかもしれないです。

岡崎委員	初期消火活動競技会などが昔はあって、大々的にやっていた。
高橋委員	今は少なくなってきましたね。 A E Dを一生懸命やったださっているから、それはそれで大事なことだと思います。
企画課長	消防団や婦人消防クラブは、施策５－３「消防・救急体制の充実」にも関わってきますが、組織としてはしっかりしていると思います。 また、自主防災組織については、施策５－２では、重要なところで、自主防災組織も地域によっては、以前より活動が活発になってきているところもあると聞いています。 「主な取組」で言いますと、上から４つ目の市ができることは啓発をしていく情報発信です。加えて、市民の皆さんに行動していただくことが大切ですので、「市民・地域等の取組」の「市民」の黒丸２つ目に、「防災用品などを準備します」と記載しておりますが、ぜひ今の高橋委員の御発言も受けて、家具の固定ですとか、身を守る部分をここに追記していきたいと思います。
三浦部会長	それでは、続いて資料３８、３９ページの施策５－３「消防・救急体制の充実」について、御意見や事実関係の確認等あれば、御発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。
三浦部会長	では、私の方からよろしいでしょうか。 ここに書く内容ではないかもしれないが、消防指令センターの広域化の中で名古屋市との共同の話があると思います。２０２５年だったと思いますが、計画への影響等はいかがでしょうか。
企画課長	消防につきましては、いわゆる広域化ということで、尾張旭市のような比較的コンパクトな市の消防力を単体で強化していくのではなくて、広域的な連携による強化が図れないかが、比較的古くからある課題でございます。 現在、本市は通信業務を瀬戸市と共同運用しております。ここ数年のうちに、名古屋市や海部の方と通信業務を共同化することによって、より広域的に迅速な対応ができないかということで、取組が進んでおります。 通信業務の部分では、第六次総合計画の計画期間中に広域化が進んでいくと思われます。
岡崎委員	個人的には、南の方に尾三消防があります。なんとなく尾張旭市はそちらの尾三地域と連携した方が、つながりが

	濃いかと思います。春日井から向こうは、大きな川で分断されていますので。 ただ、デジタル化に伴って通信を共同化していくのは良いと思います。尾張旭市のような小さな面積で、1つの消防署、消防本部を構えるということが難しくなってきた時に、どことどうやって共同化して運用していくのかというところの道しるべがあると良いのではないかと。
企画部長	消防関係で、いわゆる通信業務の部分と災害の活動部分を分けて考えますと、通信については、デジタル化も含めて、様々な部分が進歩していきますので、これまで瀬戸市と共同運用を行ってまいりましたが、それよりも大きな名古屋市、そして名古屋市を中心として、近隣市町を一緒に行うという広域化の流れがあります。通信業務については、瀬戸市、尾張旭市も含めて、名古屋市の方のデジタル化の方に一緒になっていくという流れがございます。 活動の部分に関しては、岡崎委員のおっしゃったように尾三消防の方が、本市にとって近くて大きくなってきているので、いわゆる春日井市や日進市が尾三に入る流れはあるのではないかなというところですね。 本市の過去の歴史からすると、瀬戸旭という活動のつながりもあるので、こうした中での整理も今後どうなっていくのか検討が必要です。いずれにしても、この大きさの規模の自治体で、今後も消防業務を担っていくというのは、全国的に見てもかなり少なくなってくるかと思うと、いずれそうした動きがあるのではないかとと思いますが、現時点においては、具体的にそれ以上の共同化などはない状況になります。
岡崎委員	企業の中にある、例えば、企業内の自主防災組織といったところと、協定などを結び、災害が起きた時には何らかの連携をすることも1つだと思います。自衛消防隊までではないにしても、おそらく企業の中にも、自主防災組織のようなものがあると思うので、そういったところとの連携を考えていくともっと幅が広がっていくと思います。
企画部長	まさに今おっしゃったように、市の防災活動でも、日立さんとか、自主防災が活発ですので、一緒になって連携していくこともあります。そうした企業さんと一緒になってやっていくことも必要だと思います。
三浦部会長	ありがとうございます。それでは、消防・救急関係はよろしいでしょうか。もし、何かあれば、後ほどでも構いま

	せんので御意見頂戴できればと思います。 それでは、続いて資料４０、４１ページの施策５－４「市民生活の安心の確保」について、御意見、御確認等、御発言をお願いしたいと思います。
岡崎委員	警察署の誘致については、どこの地域に行っても話がでると思います。なかなか難しいことは分かっているけれど、市民からすると、そこへの声は大きくなります。 「現状と課題」にこれについて書いてあるにも関わらず、「主な取組」には何も触れていないところが気になります。
企画課長	警察署の誘致の関係につきましては、しっかり継続的な愛知県への要望を行ってまいります、「主な取組」としてではなく、右側に、「警察署の設置や幹部交番の強化充実を、要望していく必要があります」といった、記載をさせていただきます。
岡崎委員	「幹部交番」って市民の方の認知があるのでしょうか。市民の皆さんは、「幹部交番」と「交番」の違いが分からない人もいるのではないのでしょうか。 市民目線では、例えば、東栄の交番が工事している時に、体制がどうなっているのかとか、有事となったらどうするのかなどについては関心があると思うが、「幹部交番」か「普通の交番」かは、気にしていません。 何かあればいずれかの交番に駆け込むということだと思います。
企画課長	ありがとうございます。 おっしゃるとおり、「幹部交番」という言葉が分からないかもしれません。
三浦部会長	全体的にキーワードとか、重要なところは用語解説等が一部ありますが、一度、全体を見直していただいて、必要があれば、用語解説を補充するのがいいかと思います。
岡崎委員	連合愛知としても純粋に警察署の誘致をすることは、難しいだろうと思っています。最近では、見方を変えて、愛知県には「守山警察署の管轄内の人口の増加率が高いので、元々ある警察署の管轄の見直しをしてはどうか」、「瀬戸警察署のエリアを広げて尾張旭市を管轄に加えてはどうか」、「市民の安全を守るためにエリア管轄を見直ししてはどうか」等の切り口からの要望をしています。
三浦部会長	ありがとうございます。他には、よろしいでしょうか。それではここまで基本目標５の各施策についての御意見を

	いただきましたので、続いて資料 8 の 6 ページ基本目標 5 の記載内容について、お気づきの点や御質問、御意見、御提案や賛同する点など御発言をいただきたいと思います。
岡崎委員	これまでの会話からすると、高橋委員が御発言された「減災」という言葉が直接的にないようですので、この言葉をどうするか検討が必要だと思います。 多くの施策を束ねる基本目標なので、変える必要はないかもしれませんが。
三浦部会長	「、」や「。」等の記載誤りがありますので適宜修正をいただきたいと思います。 それでは、基本目標 5 の「人とふれあい安心して暮らすまち」についてひと通り、御意見等いただきました。 自治会町内会の話とか、防災・減災の話とか、消防・救急と市民生活などの内容となりますが、改めて何かあれば、ここで御発言いただこうと思いますけれども、よろしいでしょうか。
	(意見なし)
三浦部会長	それでは、基本目標 5 の部分につきましては、これで終了とします。 次に次第の 2-(2)、基本目標 8、行政経営の分野の審議を進めていきたいと思います。 また説明をいただいて、その後、皆様からお気づきの点など御意見をいただく形で審議を進めていきたいと思います。
政策企画係長	(部会資料 3 施策別指針(素案) 56 ページから 59 ページまで、資料 8 基本構想(素案) 7 ページ下段に基づき、基本目標 5 及びその施策について説明)
三浦部会長	ただいま、基本目標 8 とその施策に関する説明がありました。 それでは、説明のあった部分について、先ほどと同様に、まず、施策ごとにお気づきの点や御質問、御意見、御提案や賛同する点など御発言をお願いしたいと思います。 まず、部会資料 3 の 56、57 ページ施策 8-1 「情報発信・利活用の推進」のところで、御意見あるいは、事実関係の確認等があれば、御発言をお願いしたいと思います。
岡崎委員	中身というよりも、「指標」の最後の「市民からの意見数」は、何をどうとらえた市民からの意見なのか分かりにくいので、細かく記載した方が良いと思います。 これだけを見ると、市役所に行って何か意見を言うと指

	標が増えるように見えてしまう。
政策企画係長	指標の内容が分かるように、もう少し詳しく記載するよう見直します。
岡崎委員	「主な取組」の８－１－３「広聴機会の充実」とありますが、「広聴の機会」とは、例えばどのようなことを指すのでしょうか。
政策企画係長	皆さんから御意見をいただくことを広聴と言っています。例えば、市長が市内企業を訪問させていただいたとき御意見をいただいたり、メールで御意見をいただいたりするものだとイメージしていただければと思います。 広聴というのが行政用語で分かりづらいかもしれません。
三浦部会長	「広報」「広聴」と良くセットで言われています。 「広報」は広報誌などのことで、広聴というのは、広く声を聞いて、施策に活かすもので、タウンミーティング等様々なものがあります。
岡崎委員	「広く聴く」ですね。「公」に聴くではないですね。
三浦部会長	どちらもありまして、漢字の使い方はまちに異なります。
企画課長	よく「公聴会」等、「公」に聴くもありますが、この場合は「広く聴く」方です。用語解説に追加したいと思います。
三浦部会長	関連して、指標の「愛着を感じる市民の割合」は、測定する方法が難しいと思いますが、こちらは市民アンケートで測定するというのでしょうか。
政策企画係長	市民アンケートを想定しております。今回の第六次総合計画を策定に当たっては、全体会で御説明させていただいた、ネットプロモータースコアという手法で、「愛着を感じない場合に０点、強く感じる場合に１０点として、０から１０点のどこに当てはまりますか。」という設問を設定しておりました。これを継続し、変化を見ていくことで良いのではないかと考えております。
岡崎委員	アンケートは、あくまでも市民の愛着ですけど、では、全体的な第六次総合計画の施策が、内向きの施策を中心にするのか、外から人を集めていく施策にするのかという点でも、こういった指標が変わってくるだろうと思います。
三浦部会長	岡崎委員がおっしゃられるとおり、重要なポイントで、プロモーションを行う上では、住んでいる方に尾張旭市の

	魅力を伝えて、郷土愛を持ってもらうというのと、名古屋市とか近隣自治体に住んでいる方に発信して、尾張旭市に住んでくださいという働きかけをすることの、2つがあると思います。そこをどうバランスを取ってやっていくのがポイントだと思います。 高橋委員からよろしければ、情報や広報等、その辺りで気になることなどあれば、お願いします。
高橋委員	尾張旭市は、広報誌が全家庭に配られていて、いろんな情報が入ります。たまたま催されているものに参加させていただくと、結構多くの人が集まっていて、小さい子どもから大人まで、楽しそうにされていて、「このまちがいいな」と思います。私はそういうところで愛着を持つのではないかと思います。 森林公園でイベントとかあるとみんな集まったりしている。集まって楽しそうにしている様子を見ると、やっぱり尾張旭はいいなと感じます。 皆さんが集まりコミュニケーションを取るきっかけとなるため、広報誌等は結構良いと思います。
三浦部会長	色々な媒体での発信が重要で、紙の広報誌を楽しみにしてくださっている方もいらっしゃると思います。そこからまちの情報を把握する方もおられます。 目的や趣旨等にあったツールを上手く使うのがポイントになると思います。
高橋委員	広報誌を見て、参加してもらって、尾張旭市はこういうことをやっているということを知り、喜んで愛着を持ってもらうとともに、楽しんでもらえるといいなと思います。
三浦部会長	ありがとうございます。それでは、情報発信・利活用についてはよろしいでしょうか。もしあれば、後ほど伺えればと思います。 それでは、次に資料58、59ページの施策8-2「行財政運営の推進」のところで、何かコメント等あれば御発言をお願いしたいと思います。
岡崎委員	一番気になるのは、「現状と課題」も「主な取組」丸の2つ目です。どちらも、デジタル社会の実現をめざしていることを、「政府」や「国」が進めているからと表現されていますが、「何々を推進したいのでデジタル化を進めていく」という目的があるはずで、「国に言われたからやります」という言い方ではなくて、国がめざす目的が、我々市民にとってメリットがあるので進めるというように、大本となる目的を記載した方が良いと思います。

企画課長	ありがとうございます。 本来の目的を表記するように修正したいと思います。
三浦部会長	重要なポイントだと思います。市の総合計画ですので、国に言われたからというよりは、市民の方の利便性向上というところを全面的に出した方が良いと思うので表記を検討いただければと思います。
岡崎委員	会社に勤めていると、住民へのサービスって、極端にデジタル化が推進していても、メリットが思うように広がっていくかといわれるとそうではないと思っています。 市役所職員の業務をもう少しデジタル化すれば、もっと時間を有効に活用できると思います。ただでさえ、一定の割合よりも少ない職員数で業務を進めているので、今までのものは何も変えずに新しいことをやると職員が大変な思いをするだけです。一人当たりの生産性を高めていくために、文章中にあるスクラップ・アンド・ビルドを実施し、職員の皆さんに余裕が生まれることが、市民に対しより良い行政サービスが提供できるものだとは個人的には思います。 皆さん方に余裕がなくなると、新しいこともできなくなってしまうし、有事が起きた時にバタバタしてしまうので。
三浦部会長	ありがとうございます。今のところも非常に重要で、デジタル化やA I 化には2つ方向性があるって、1つは市民に対するサービス。もう一つは、市役所内部の事務効率化です。両方を意識していただきながら、デジタル化に向き合っていくというのが、ポイントかと思います。 他に御意見などありますか。 では、基本目標8の各施策について、御意見をいただきましたので、資料8の7ページ基本目標8の記載内容について、お気づきの点や御質問、御意見、御提案や賛同する点など御発言をいただきたいと思います。
	(意見なし)
三浦部会長	ありがとうございました。 本日、様々な御意見が出ました。指標の設定の仕方ですか、そもそものレイアウトの部分など、その辺りで様々な意見がありましたので、企画課には、検討していただきたいと思います。また、個々の内容に対する御意見については、一旦持ち帰っていただいて、計画に反映できるところはぜひとも反映していただきたいと思います。

	それでは、一旦企画課にお返ししたいと思いますので、よろしくお願いします。
企画課長	次回部会は、7月31日（月）の午後1時30分から市役所の2階にあります、203会議室で開催し、基本目標7産業・にぎわい・多様性の分野と基本構想についての審議をお願いしたいと考えております。 皆様大変お忙しい中、恐縮ですがよろしくお願いします。 続いて、連絡事項でございます。 皆様に調査審議していただいております総合計画の素案について、パブリックコメントを実施しますので、御報告いたします。 パブリックコメントは、7月20日（木）から8月18日（金）まで市ホームページや主要公共施設に素案を設置し、市民や事業者などの皆様から御意見を広く募るものでございます。 なお、本日机上に参考資料10を配布しておりますが、こちらは市ホームページなどに設置する素案のうち、すでにお配りしております「基本構想」と「施策別指針」を省略したもので、3月に開催した第1回総合計画審議会の全体会で御説明した内容等となっております。 事務局からは以上でございます。
三浦部会長	ありがとうございました。 ただいまの説明に対し、委員の皆様から御質問等はございますか。
	（意見なし）
三浦部会長	ありがとうございます。 その他、委員の皆様から何かございますか。
	（意見なし）
三浦部会長	企画課からは何かございますか。
企画部長	特にございませんが、皆様、本日は、長時間に渡り御審議いただき、誠にありがとうございました。次回以降も引き続きどうぞよろしくお願いします。 以上でございます。
三浦部会長	以上をもちまして、第1回第3部会の日程をすべて終了いたします。次回もよろしくお願いします。